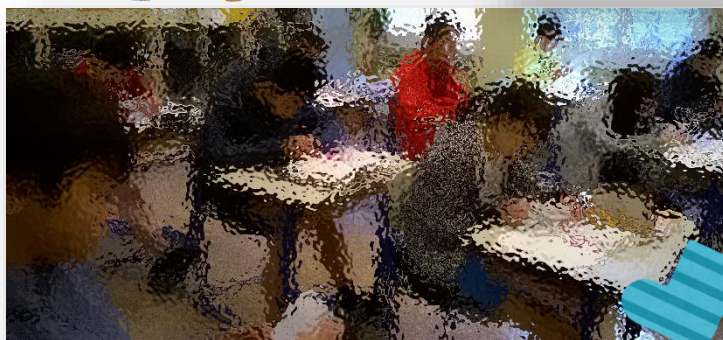
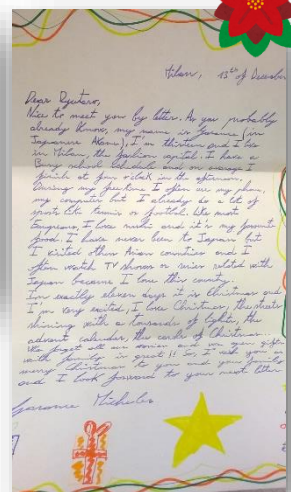




「pen pal って何ですか？」



中学部の問題集に pen pal という言葉がたまに出てきます。生徒達に「pen pal って何ですか？」と聞かれて「文通相手だよ。」と答えると「ふーん。」で終わっていたのが、さらに「文通相手って何ですか？」と聞かれるようになって数年。今はSNSが主流で、手書きの手紙で文通なんてしませんよね。私が中学生の時、スペイン人の女の子と数年間文通しました。毎回辞書を使って一生懸命手紙を書き、スペインから届く手紙をワクワクと待ちわびました。彼女の字がびっしり詰まった便箋を手にとり「スペインってどんな国だろう？」と想像して胸躍らせました。読みにくい文字もありましたが、それを必死で読解するのも楽しかったです。「そういう感覚はスマホやPCのスクリーンを見るのとは違うだろうな。」と思っていた矢先、フランス人学校の先生から「英語を使った交流を定期的にしましょう。」とお誘いをいただきました。二人で案を出して話し合い、昔ながらの「文通」を始めることに。「きっと私の生徒達も pen pal という言葉を知らないと思うわ。」と先生。お相手は14歳の中学生。ファーストネーム、英語レベル、趣味、性別を考慮して、教師側でパートナーを組み合わせました。第1回はクリスマスカードで自己紹介。本日ついに子供たちにフランス人学校からの手紙を渡していきました。「僕の相手はニコロです！」「私はカーラです。」などと言いながら手紙を受け取り「この子の字、読みにくいなあ。」と手紙を読む子供たちの顔はニコニコでした。読み終わってから数人の子供たちが、なんと手紙を返却しにきたので「これはもう、あなたの手紙だよ。この子はあなたの為に書いてくれたんだから。」と手紙を返しました。こうやって実体のある「手紙」をやりとりするのは、やはりとても心に残る大事な行為かもしれませんね。自分の中学校時代を思い出して懐かしく思いました。私自身そうでしたが、こうやって「英語で表現する力」をつけていってくれることを願っています。



良いお年を！

